

独創は闘いにあり

西澤潤一著 プレジデント社 1986

ネットワーク情報学部教授 田中 稔

読めば読むほど味の出る本ということで、この本が浮かんできた。平成元年の発行ですが、今読んでもこの本の筆者の感慨、思いが伝わってくる。私自身、研究などで行き詰まった時には相変わらず良き相談相手になってくれている。

インターネット社会の現代では最早当たり前となっている光通信、その光ファイバーの有効性に初めて気づき、「発明者」として知られている西澤潤一東北大学名誉教授。そのほかにも発光ダイオードなど数えきれないほどの発明がある。この本は彼の半生を綴ったものであるが、独創的な仕事を行う苦悩、闘いなどが良く伝わってくる。さらに所々で引用される語句や言葉が印象的である。「愚直一徹、大道無門」、「自分をごまかさないと一点で、私はたしかにかなりの頑固者である」、「頭をいじめぬいたからこそ、「頭が強く」なった」・・・どうやら「賢い頭」ではない。自分をごまかさない「強い頭」、これが重要らしい。

【その他の推薦図書】

数学者の休憩時間 藤原雅彦著

新潮社 1993 (新潮文庫)

フェルマーの最終定理 サイモン・シン著 青木薫訳

新潮社 2006 (新潮文庫)

成長の限界：人類の選択 ドネラ・H・メドウズ他著

枝廣淳子訳 ダイヤモンド社 2005

持続力 山本博著 講談社 2006 (講談社+α新書)



プロフェッショナル仕事の流儀 9

茂木健一郎、NHK「プロフェッショナル」制作班編
日本放送出版協会 2007

人間科学部教授 吉田 弘道

NHKの高校生に対する意識調査(『NHK中学生・高校生の生活と意識調査：楽しい今と不確かな未来』NHK放送文化研究所編著 日本放送出版協会、2003.)をみると、若者たちは将来の仕事や人生にあまり夢を抱いていないようです。それには、その高校生たちの親世代が、「そんなに苦労してもよいことはない」と思っていることが影響しているようでもあります。しかし、大人はどうあれ、これから先を生きていく若者には、なにか夢を持ってほしいと、中年になった私は願っています。

ここに紹介する本は、NHKが手掛けて、観る者を感動させた「プロフェッショナル」という番組を本にしたものです。2006年に発刊された第1巻から2008年の22巻までありますが、手元にあるのは第9巻です。中学校の英語教師・田尻悟郎、脳神経外科医・上山博康、写真家・上田義彦の3氏が取り上げられています。領域は異なりますが、それぞれ仕事に対する情熱は強く、そのための工夫も尋常ではありません。しかし、この人たちにも、将来を迷う若い時はあったはずで、どの巻でもいいので、興味のあるものを手に取って読み、夢を持って欲しいと思います。